

# 関節リウマチの治療について

荻野整形外科クリニック

荻野 法之 先生

関節リウマチの薬物療法と手術療法について説明します。

薬物療法において主要な薬剤である抗リウマチ薬は、関節の炎症や骨関節破壊を抑制することを目的に、ほとんどが関節リウマチと診断後3カ月以内に使用されます。その他、痛みや腫れの軽減を目的とする非ステロイド性消炎鎮痛薬や強力に炎症を抑制するステロイド薬などが使用されます。また生物学的製剤は、抗リウマチ薬より強力な骨関節破壊の抑制が認められ、生命予後(寿命)の改善も指摘されており、点滴注射する薬剤(インフリキシマブなど)と皮下注射で投与しますが、医療施設でのトレーニングを受ければ自宅での自己注射も可能な薬剤(エタネルセプトなど)などがあります。そして、抗リウマチ薬、特にメトトレキサートと併用して使用することにより強力な効果を期待できると指摘されています。しかし、生物学的製剤が使用されていない医療施設もあり、また、高額医療とされ使用に躊躇する人もいますが、高額療養費制度の適用により負担が軽減されることがありますので、医療施設に問い合わせてください。

次に、薬物療法を施行する際の注意点は副作用であり、また、間質性肺炎、腎機能障害、肝機能障害、B型肝炎、癌の治療中、妊娠中などの人は、薬剤を使用できないことがありますので、担当医に相談するようにしてください。薬物療法でも、痛みの軽減や骨関節破壊の抑制が不十分な場合には、手術療法を施行することがあります。手術療法には、滑膜切除術などのように痛みを取り除くことを目的とする手術と、人工関節置換術、関節固定術、関節切除形成術などのように関節の機能を回復させることを目的とする手術があり、それぞれの関節の部位や関節の状態などに応じて施行されます。

以上説明したように、関節リウマチに対する治療法はいろいろありますので、専門医の診断を受け、病態や治療法についての説明を聞き、自分にとって最適な治療法を選択することが必要です。